

氏名：舟木耕太（福山市立神辺中学校）

現地勤務先：イニヤミッサ中等学校

カニマンボ Cani Mambo

モザンビークからの便り



Boa tarde！（こんにちは！）日本では新年度を迎え、新しい出会いの季節でしょうか。こちらは、雨季を終えて冬を迎えようとしています。（朝晩は少し肌寒いですが、お昼はとても暑いです。）

さて、こちらは2月に新年度がスタートしました。これまでの活動を通して考えてきたこと（子どもの課題、自分にできること、伝えたいこと）を大切に、日々生徒と向き合っています。私のやり方はもしかしたら、現地の先生のやり方とは違うかもしれない。でも、課題も多い上に、ものすごいスピードで変化しているモザンビークの社会。だから、みんなでよりよい教育を考えないといけないと思っています。

仲間と一緒に学ぶということ…共に生きるために

現在、病気でお休みされている先生の臨時担任をしています。学級で何かをするという機会が少ないモザンビークですが、その中でも集団を高めるための機会を作り出せないものか？考えています。70人の生徒に対して、先生が一人で頑張るのではなく、みんなで学び合える集団になるのが大切だと思います。そのために、集団づくりの活動などを取り入れています。

もちろん、数学の授業の中でも、その視点を大切にしようと考えています。ペアやグループで問題を解く時間も少しずつ増えてきました。自分さえよければ良いではなく、仲間と支えあえるように！

学級活動の時間。時には教室を飛び出して、集団づくりの活動を行ないます。指示されて動くことに慣れている生徒は、活動に悪戦苦闘しながらも、いろんなことを考えています。



授業では「待つ、信じる」をモットーに…しっかり自分の頭で考えるために

数学の先生として、授業の中では「しっかり考えよう」と伝えています。何となく、何となく、ですませるのではなく、「なぜか？」と疑問を持ち、掘り下げていく力をつけてほしい。すぐに電卓に頼る、理由も知らないのに便利な公式に頼るのではなく、自分で困難に向かう力をつけてほしい。

それは数学に限った話ではないかもしれません。学校生活の中では、先生の力に頼る場面をよく目にします。「先生、あの子がうるさいから追い出して！」「先生、あの子が意地悪するから叱って！」

逆に、先生の顔を伺って、先生のいないところで態度を変えてしまう生徒もいます。

授業の中では、よほどのことがない限り待ち続けよう！と思います。すぐに先生が何とかしていたら、自分で考えられない。生徒は失敗してもそこから学べる力がちゃんとある！

そんなこだわりを持って授業をしているのですが、これらは決してモザンビークだから大切にしたいことではないと思います。日本でも同じことだと思います。だからこそ、広島で中学校の先生として、同僚の先生とともに頑張ってきた日々が、この国でも活かされているなと思います。

一番必要とされていることは何？

さて、右の写真にある、電子黒板。日本でも少しずつ導入されてきている最新の ICT 教育の機器が、私の勤務する学校には、何と2台もあります。これは外国の支援によって導入されたそうですが、2台の電子黒板がありながら、電子黒板を保管し、利用できる教室は学校に1つしかありません。さらに、使い方を知っている先生も少ないです。

今の学校には、もっと必要な別のものがあるのではないかと考えることもあります。3人がけではなく、一人ずつ机を使えないだろうか？凸凹で磁石も付かない黒板はきれいにならないか？少なくとも、電子黒板一台の値段ですべて揃ってしまうそうです。

支援をした団体は、良かれと思ってやったのだと思います。でも、現場が今一番必要なものは、実際にその現場に活動に入ってみないと分からないことが多いと思います。それは、何も国際協力に限ったことではないと思います。誰かのために行動するためには、まずは相手の現実を知ろうとすることから。

しかし、電子黒板は無駄なものではありません。むしろ、電子黒板を決して無駄なものにしないためにも、同僚と授業で取り入れていこうと考えています。

小さな一歩でも、一人だけでも動き始めること…

学級活動や数学の授業で、今までやっていなかった日本のやり方を紹介するとき、私の授業だけで終わらせたくない、という思いがあります。

同僚を巻き込んで活動をしていくこと。私の授業だけでなく、日本の学校の良いな！と思うこと、日本の先生の経験でこれは取り入れたい！と思うことを同僚にも紹介したい、伝えたい、一緒になってより良いものを作り上げていきたい。これは、青年海外協力隊の大切な視点だと思います。

そこで、同僚にも積極的に働きかけをしています。同僚は、「面白そうだね」「いいね」と言ってくれても、「一緒にやろう！」とはなりません。結局、一人で授業をしていることが多いです。

しかし、自分が良かれと思っていることは相手のためになっているか？を考えると、今、同僚が必要としていることは、授業の仕方や学級活動のアイデアではないのかもしれない…だから、同僚のことをもっと知ることが必要だなと思っています。

今ないものを新しく取り入れていこうと思うと、最初のスタートからみんなを巻き込むのは簡単ではありません。でも、そこで待ち続けていたら何も生まれません。

現在、自分のやっている活動は一人ぼっちかもしれませんが、まずは一人だけでも続けてみることから始めています。いつか、何かのタイミングで同僚が興味を持ってくれたとき、いつでも一緒に活動ができるように…



2台もある電子黒板が、1つの教室に入っています。つまり、一台は置物になっています。なぜなら、安定した電力と、鍵のかかる部屋は1つしかないからです。残念です…



一番必要とされていることは？と考えすぎて、相手が必要としていることだけで終わらせないように。

自分なりの問題意識を持ってアイデアを出しつつ、それを無理やり押し付けないように。 バランスを取りながら…